社会科固有の「読解力」形成のための授業構成と実践分析（Ⅵ）
－第４学年単元「天空の城（竹田城）のあるまち・朝来市」の場合－

關　浩和*　原田智仁*　吉水裕也*　米田　豊*
重枝孝明**　浅野光俊**　森　清成**
戸出彰男***　井元康行***　小寺　研****

本研究は，社会科授業の開発と分析を通して，「社会科固有の読解力」とは何かを解明しようとするものである。本研究を始めるにあたり，「社会科固有の読解力」について，次の仮説を立てている。
（１）社会科固有の読解力は，対象に即した科学的理論をベースにして形成される。
（２）社会科固有の読解力は，専心的な体験・表現活動ではなく，分析的な探究活動を通して形成される。
（３）社会科固有の読解力により形成される認識は，主観的知識の増殖ではなく，客観的知識の成長である。
上記の仮説に基づき，第６年次となる今年度は，第４学年単元「天空の城（竹田城）のあるまち・朝来市」の開発・実践を行った。対象として竹田城観光を通した朝来市のまちづくりを設定し，「観光客誘致をめざす朝来市がなぜ竹田城の観覧料を徴収するのか」を主発問に，公・商・共・私の立場から読解を試みた。その結果，単元構成に課題はあるものの，教師の期待する読解にほぼ成功した。

キーワード：小学校社会科，地域学習，読解力，資料活用，史跡保護，まちづくり

１　問題の所在

本研究は，社会科固有の読解力形成のあり方を探るものである。大学と附属学校の連携による社会科授業研究は，テーマを「社会科固有の読解力形成のための授業構成と実践分析」として進めている。昨年度は，小学校第３学年単元「お店のひみつにせまる！」において，読解力形成過程について，客観的な知識の成長を評価するために，中心教材として，チェーン店展開をしているスーパーマーケットＳ店と，ファーマーズマーケットＦ店を中心に取り上げ，立地戦略に迫った。

昨年度の研究の成果として，大きく次の三点が挙げられる。第一に，近接立地する二つの商店の見学と資料読解を通して，商店の秘密（販売戦略）に関する理論－経営理念・場所・商品・販売促進・価格の５つのＰ－の習得に学級全体として成功したことである。第二に，商店の販売戦略に関する子どもの読解は，情報の収集→情報の解釈→推論の省察という段階を踏んで深められることが改めて確認されたことである。その点で，子どもの読解力の形成過程を評価する方法として，毎時間毎に①今日の授業でわかったこと，②考えたこと，③これから知りたいこと等をワークシートに記録させ，保存することの意義も確認された。第三に，子どもの的確な読解を促し，科学的認識形成（理論的知識の習得・活用）を保証するためには，教師による発問と資料の提示が不可欠なことが，商店の見学を伴う中学年の地域学習においても確認されたことである。社会見学を単なる活動主義に陥らせないためには，そのねらいや意義付けが重要になる。通常，それは問題発見と仮説検証とに大別されるが，本研究では商店見学のねらいを問題発見と仮説形成と位置付け，仮説検証のための資料については別途教師が提示する形で授業を進めた。その結果，商店の見学とそこから得られた情報が，その後の学習の中で繰り返し想起され参照されることになり，活発な探究を生む要因になった。他方で，課題も指摘された。その最たるものが授業構成に関する課題である。とりわけ終結部の取扱いについて，展開部の学習を整理・要約する形で終わらせる構成の限界が明らかになった。つまり概念等の理論的知識を含め，習得した知識を文章や画像にまとめたり，人前で発表させたりする方法は，活動的であるだけに子どもも教師も納得しやすいのが実情である。だが，その納得は活動自体にあって認識にあるのではない。したがって，大がかりな活動の割には，認識内容が陳腐な事例も少なくないのである。幸いにして，本事例はその弊を免れたものの，ねらいを習得した知識の整理・要約ではなく，知識の活用に置いていたならば，更なる認識の深化を伴う読解力形成が可能になったものと推察される。

そこで，今年度は，昨年度の反省を踏まえて，これまでの研究成果を活かせるように，第４学年単元「天空の城（竹田城）のあるまち・朝来市」において，読解力形成過程について，客観的な知識の成長を評価するために，次の手順で研究に取り組むことにした。

①「天空の城（竹田城）のあるまち・朝来市」の単元を設定し，史跡保護と環境整備の内容を把握できる単元構成を共同で立案する。
②本研究の中心教材として，竹田城の観覧料徴収開始のニュースを取り上げ，資料を収集する。
③授業実践の過程は，子どもの読解の過程がたどれるように，子ども自身の考えを表現させ，ワークシート

＊兵庫教育大学大学院教育実践高度化専攻　＊＊兵庫教育大学附属小学校　＊＊＊兵庫教育大学附属中学校
＊＊＊＊姫路市立広畑第二小学校
平成26年９月18日受理

（授業記録）をポートフォリオ的に保存する。

④教師は，プリント配布資料の読み解き過程と子どものワークシートを質と量の両面から分析し，読解の成長過程を把握し，評価する。

⑤読解力形成のための授業構成を評価し，次の実践に活かせるようにする。　（關　浩和）

2　授業構成のねらいと実際

2.1　教材解釈

本単元は，竹田城のある朝来市の人々のくらしについて，見学や調査，資料の活用などをとおして，「朝来市は，行政・事業者・地域住民が協力しながら，竹田城を地域の資源として保護・活用し，まちづくりに生かしていることがわかる」ことをねらいとしている。

子どもたちは，前単元「県の広がり」において，兵庫県には多くの産業や特産物・観光名所があることを知り，兵庫県内の様々な地域への関心を高めることができた。本単元で取り上げる竹田城に関しては，学級の約７割の子どもが知っており，その主な内容は，「日本のマチュピチュや天空の城と呼ばれている」「雲海が見られる」などであった。竹田城は近年，メディアに取り上げられることが多く，子どもたちはテレビで目にしたり家族で話したりしていることが考えられる。

竹田城は，国の史跡に指定されている朝来市の山城遺跡であり，雲海に包まれた姿や竹田城から見下ろす風景は，まさに「天空の城」を思わせる。近年は，日本城郭協会から日本100名城に選定されたり，映画のロケ地や企業のＣＭなどにも使われたりして注目を浴び，人気を博している。平成21年度までは年間２万人前後であった入場者数も，平成21年度以降激増しており，平成24年度には23万人，そして，平成25年度は11月末の段階で40万人を突破した。朝来市では，「観光まちづくり（地域が主体となって，地域の資源を生かすことにより，交流を振興し，活力あるまちを実現させる運動）」という考え方のもと，市による「天空バス」の運行や商工会による竹田駅周辺の飲食業の誘致，地域の人々によるボランティア活動など，行政・事業者・地域住民が協力してまちづくりを進めている。しかし，観光客が急増したことによって，城跡の石垣崩落などの史跡保護にかかわる問題や近隣道路の渋滞・違法駐車といった問題も起こっており，対応に追われている状況もある。そのような中，朝来市は，平成25年10月から史跡保護や環境整備の費用の一部を観光客に負担してもらうため，観覧料の徴収を始めている。このような，朝来市の人々のまちづくり及び問題に対する具体的な取り組みは，人々が協力して竹田城を保護・活用し，まちづくりに生かしていることを理解させるのに適した教材だということができる。本単元の学習を展開していくにあたって，次の二点を重視する。

一つ目は，体験的な学習活動の設定である。竹田城についての既有の知識や経験が一人一人異なる子どもたちが学習問題を共有し，同じ土俵に立って解釈を語り合うことができるように，竹田地域のまちの見学，市役所，地域の人々へのインタビューなど，体験的な学習活動を取り入れる。また，竹田城の様子については，映像資料を活用し，どの子どももイメージをもつことができるようにしたい。

二つ目は，「立場軸を取り入れた思考」の活用である。「立場軸を取り入れた思考」とは，附属小社会科部が提案している「複眼思考」にかかわるものであり，社会事象の意味や価値を様々な立場から考えることを意味する。竹田地域のまちづくりには，朝来市役所職員，城下町のお店の人，地域の人といった様々な立場の人がかかわっている。立場によって，様々な考え方があることから，立場軸を取り入れ，比較しながら社会事象を考えていくことにより様々な立場の人の考え方にふれ，竹田地域のまちづくりについてより理解できるようにしたい。

2.2　単元の指導

単元名「天空の城（竹田城）のあるまち・朝来市」

2.2.1　目標

○竹田城や朝来市の人々の取り組みに関心をもち，自分が調べたいことや追究したい問いをもって，学習活動に参加している。　【社会事象への関心・意欲】

○朝来市のまちづくりに対して問いをもち，仮説や考えを自分の生活経験や学習経験をもとに表現するとともに，様々な立場に立って朝来市のまちづくりの特色について考えている。　【社会的な思考・判断・表現】

○各種資料を活用して，朝来市のまちづくりについて必要な情報を読み取り，図や文を使ってノートやワークシートなどにまとめることができる。　【観察・資料活用の技能】

○朝来市は，行政・事業者・地域住民が協力しながら，竹田城を地域の資源として保護・活用し，まちづくりに生かしていることがわかる。

・行政は，竹田城を国の史跡として保護しながら，観光客を呼び込み，地域を活性化しようとしている。

・事業者は，竹田城を資源として活用することで観光客を呼び込み，利潤を追求しようとしている。

・地域住民は，竹田城を地域の宝として守り，多くの観光客にマナーを守ってほしいと考えている。

【社会事象についての知識・理解】

2.2.2　単元計画（４頁に掲載）

2.3　授業の実際

2.3.1　第１次　問題設定

まず，竹田城について知っていることを交流した。竹田城に実際に行ったことのある子どもは数人であったものの，多くの子どもがＣＭやテレビ番組などのメディアを通して竹田城のことを知っており，「日本のマチュピチュと呼ばれている」「雲海がきれい」といった具体的な情報が多く出てきた。また，その後，竹田城を紹介する映像資料を視聴することによって，竹田城のつくりや歴史などの概要を知り，イメージを広げることができた。

次に，近年竹田城への観光客が増えていることを示す資料を提示し，その背景とそれがもたらす影響について

考えていった。背景としては，前述したＣＭやテレビ番組などのメディアや，ツイッター等のＳＮＳで有名になったことがあげられた。影響については，まず，「有名になる」「お店がもうかる」といったよさが子どもたちから出された。しかし，意見を交流していくうちに，「観光客が増えることはいいことばかりなのか」という疑問が生まれてきた。それからさらに話し合いを続けていくと，「ゴミが増える」や「城が傷む」といった意見が出され，問題点へも意識が向くようになった。そこで，単元をとおしての学習問題を「朝来市の人々は，竹田城への観光客が増えたことに対してどのような取り組みをしているのだろうか。」と設定し，朝来市の人々の竹田城に対する取り組みについて追究していくことにした。

2.3.2　第２次　問題の追究

朝来市の人々の竹田城に対する取り組みについて調べるために，竹田のまちを見学したり，市役所や地域の人に話を聞いたりした。見学後，様々な取り組みについて各立場主体（市役所･事業者･地域住民）毎に分類していくことによって，子どもたちは，朝来市では行政・事業者・地域住民が協力して竹田城に対する取り組みを行っていることを捉えることができた（表１）。

表１　朝来市の人々の竹田城に対する取り組み

主体	取り組み
市役所	「天空バス」の運行　観覧料の徴収 情報発信　フォトコンテスト など
事業者 （商工会）	グッズの販売　マスコットキャラクター 飲食店の誘致　など
地域住民	ガイド　清掃活動　杖の製作　など

さらに，取り組みをまとめていく中で出てきた問いをその後の各時間の学習問題とし，追究していくことにした。第２次の４・５・６時の学習問題はそれぞれ「なぜ商工会は駅前に飲食店を呼んだのだろう。」（事業者），「なぜ地域の人はボランティア活動を行っているのだろう。」（地域），「なぜ朝来市は『天空バス』の運行を始めたのだろう。」（行政）であった。そして第二次の最後の学習問題として竹田城の観覧料徴収について取り上げた。この問題を第２次の最後に取り上げたのは，まちづくりに重要な観点である「資源活用」と「史跡保護」について，観光客や管理する市など様々な立場から考察することができ，朝来市の竹田城を生かしたまちづくりについて多面的・多角的にとらえることができると考えたからである。学習問題を「なぜ，朝来市は竹田城の観覧料を取り始めたのだろう。」と設定し，予想，仮説を立て，資料を用いて追究した。

そして，本時では，資料から知った事実や考えられることを交流し合い，学習問題の解決にせまった。以下，本時（第２次　８時）の交流場面における TC 記録（一部抜粋），および，それに対する分析結果を示す（表２）。

本時の授業では，朝来市が観覧料を徴収し始めた理由について，「観光客の安全確保」と「史跡保護」の観点から多くの意見が出た。具体的には，「観光客の安全確保」では，通路の整備のための費用，「史跡保護」では竹田城を修理するための費用などである。また，300円という料金設定についても取り上げ，「資源活用」の観点からも考えるようにした。その中で，観光客や市といった異なる立場での意見も出て，観覧料徴収という社会事象を多面的・多角的にとらえることができた。竹田城という資源を生かしたまちづくりに対する朝来市の考え方を理解することができたと考えている。

2.3.3　第３次　一般化

これまでに学習してきたことをまとめる活動を行った。具体的には，文化的景観や建造物を有する他の地域の事例と比較し，共通点を見出すことによって，地域資源を活用したまちづくりについてまとめることである。ここでは，同じ兵庫県にあり，世界遺産「姫路城」を有する姫路市を取り上げることにした。子どもたちは，朝来市と姫路市の取り組みを比較することによって，双方とも市や事業所，地域が協力してまちづくりを行っていることをとらえることができた。このことによって，地域資源を生かしたまちづくりについての知識を一般化することができた。　（重枝孝明）

3　読解力形成過程の分析と評価

3.1　学級全体の読解力形成過程

3.1.1　本時における読解力形成過程の分析

今回の実践は，竹田城跡のある朝来市が，観覧料300円（高校生以上）の徴収を始める。これまで観覧料を徴収していなかったのに，なぜ，300円の徴収を始めたのか。その理由に迫ることで，安全性と費用（コスト）の問題，社会における説明責任や根拠づけの重要性について探ることが目的である。その読解過程は，図１「朝来市が観覧料を徴収し始めた理由」の読解過程に示す通り，安全性 safety，自然保護・景観保護 conservation，費用 cost について，複数の資料から丹念に読解している。

3.1.2　本時における読解力形成と評価

竹田城跡は，訪問者が激増したことによって，多くの問題が発生している。例えば，竹田城跡周辺の駐車場，飲食店，宿泊施設の不足の問題，周辺住民への影響（路上駐車の増加，騒音，通行規制の実施など）が出ている問題。来訪者の安全性と対策費用（コスト）の問題。城跡の景観保全（石垣の一部の崩落危機）の問題などである。これらの問題解決のための一つの方策が，観覧料徴収である。本時では，竹田城跡の石垣崩落危機の新聞記事から，竹田城跡の石垣の崩落の危機を読解し，竹田城跡の松枯れの記事から，竹田城跡の松の木が枯れたり，根元を踏まれて，地面が荒れたりしている様子を読解して，安全性確保と自然・景観保護のために観覧料を徴収し始めた理由を把握している。竹田城跡を史跡として保護したいなら，観光客の立ち入りを禁止すればよいが，国の史跡を観光地（収入源）として考えている朝来市の立場がある。自然・景観保護か観光振興かというジレンマについて，実際に朝来市役所竹田城課の藪脇さんの話を手がかりとして，観光地（市の収入源）として期待し

2.2.2　単元計画（全12時間）　□ 学習問題　　○１時間　◎２時間

	学　習　活　動	教師の働きかけ	評価の視点
第１次 問題設定 ２時間	○竹田城について知っていることを出し合い，竹田城の概要について知る。 ○竹田城への観光客が増えていることを知り，その背景やそれがもたらす影響について考える。 ・背景 ・よいこと ・問題点	・映像資料を用いることによって，竹田城の様子を捉えることができるようにする。 ・竹田城の観光客数の推移を提示し，増加の背景やそれがもたらす影響について，予想することによって，問題設定につなぐことができるようにする。	・竹田城に関心をもち，知りたいことや調べたいことを考えている。 ・資料から必要な情報を読み取っている。
	朝来市の人々は，竹田城への観光客が増えたことに対してどのような取り組みをしているのだろうか。		
第２次 問題の追究 ８時間	◎竹田のまちを見学して話を聞いて竹田城に関する朝来市の人々の取り組みについて調べる。 ○見学したり，話を聞いたりして，得られた成果や問いなどをまとめる。 ○朝来市商工会が，竹田駅周辺に飲食業の店を誘致した理由について考え，話し合う。（事業者） ・駅周辺の飲食店の少なさ ・観光客の不満解消 ○地域の人がボランティア活動を行っている理由について考え，話し合う。（地域） ・観光客に来てほしいという思い ・地域の宝としての思い ○朝来市が「天空バス」の運行を始めた理由について考え，話し合う。（行政） ・交通渋滞の緩和，路上駐車防止 ・市内観光の促進 ↓ ◎朝来市が竹田城の観覧料を徴収し始めた理由について考え，話し合う。　（本時　２／２） ・史跡の修復 ・施設整備の充実	・観光客の増加に対する取り組みに着目して，まちの様子を見学したり話を聞いたりするように促す。 ・取り組みの主体を分類してまとめることによって，行政・事業者・地域住民が一体となって取り組んでいることが捉えられるようにする。 ・竹田駅周辺の地図や観光客の話などの資料から，飲食店の少なさや観光客の不満に着目することができるようにする。 ・地域の人の話などの資料から，観光客のためという思いと地域の宝としての思いに着目することができるようにする。 ・交通状況の写真や「天空バス」のルートなどの資料から，　渋滞や駅周辺の観光客の出入りといった問題について考えることができるようにする。 ・史跡の修復や施設整備の様子などの資料から，竹田城を保護しながら，多くの観光客に来てほしいという朝来市のまちづくりに対する考え方を捉えられるようにする。	・まちの見学や市役所，地域の方かの話から必要な情報を収集している。 ・行政や商工会，地域の人々の取り組みについて調べ，表にまとめている。 ・商工会が駅周辺に飲食店を誘致しているのは，観光客を呼び込み，利潤の追求を図っていることがわかる。 ・地域の人がボランティア活動をしているのは，観光客のためであるとともに，竹田城は地域の宝であり，大切にしたいという思いをもっていることがわかる。 ・朝来市が「天空バス」の運行を始めたのは，交通渋滞の緩和や市内観光の促進を図るためであることがわかる。 ・朝来市の人々が，竹田城を資源として保護・活用し，まちづくりに生かしていることがわかる。
第３次 一般化 ２時間	◎他の地域の事例と比較しながら，地域資源を活用したまちづくりについて考え，まとめる。	・文化的景観や建造物を有する他の地域の事例と比較することによって，地域資源を活用したまちづくりについてまとめることができるようにする。	・地域資源を活用したまちづくりについて考え，表現している。

表２　本時の交流場面における TC 記録とその分析

ＴＣ（Ｔ：教師　Ｃ：子ども）記録	記録の分析
Ｔ：資料をもとにわかることや考えられることを考えていきましょう。 Ｃ１：資料１で，土がゆるんで流れたりしたから，男の人が重傷になったからそういうところをきれいにするためにも使うと思います。 Ｔ：道をきれいにする。関連しているところはありませんか。 Ｃ２：土がはがれたりしてそういうので，土とか砂利道とかがあれて，そういうのを直すお金でとっているんだと思います。 Ｔ：重傷を負った.，という事故も起こっていた。ということは，けがをする人がいるからどうしようと思っているの？ Ｃ３：道をきれいにする。 Ｔ：道をきれいにしたり，直したり。そういうことを考えている。 （略） Ｃ４：資料２で，車とか並んでいる駐車場に，赤い棒をもっている人がいるから，人がたくさん来すぎて，車の置くところを誘導しないと入らなくなっちゃうくらいになっているから。 Ｃ５：ガードマン。警備員さん。 Ｔ：警備員さんって何をする人ですか。 Ｃ６：車を誘導する。 Ｔ：何のために。 Ｃ７：車が駐車場に満車になって，もしこの人がいなかったら，路上駐車とか勝手にして朝来市の人が困るから警備員がいると思います。 Ｃ８：車がいっぱいで，入りきらなくなったら事故になったりするからいる。 （略） Ｃ９：松の木の植え替えをするためだと思います。 Ｃ10：資料３で，分かることは，観光客とかに松が踏まれて，あまり観光客に大切に思われていなくて，考えたことは，例えば，０円の博物館と，500円くらいの入場料の博物館だったら，500円くらいの方がすごく大切なものというイメージがあって，０円だったらそんなに大切じゃないって感じで，お金を取ることで，大切というイメージができるからお金を取るのだと思います。 Ｃ11：竹田城にあるものは大切だと思われるために，竹田城だけじゃなくて植物も大切だということをお客さんに知ってもらうためにお金を取って，大切だということを伝えるのだと思います。 （略） Ｃ12：資料４で，飛び出している石を直すのにお金がいるからお金を取っているのだと思います。 Ｃ13：竹田城の石垣はすごく大事な一部だから，それを直すためにお金がいる。 Ｃ14：聞いた話で，400年前の姿がそのままあるから，大事にしていかないとそういうのがつぶれたら歴史みたいのがなくなって人気が下がったりする。立ち入り禁止の柵を作っているけど，柵を変えたりするのも無料で作れるわけじゃないから，そういうのにお金をためておくと思います。	 昨年度から坂道の表面にくぼみができ，土で雨が流れたり，石積みがゆるんだりして歩行危険か所が出現していた。11月19日には，坂道から男性が転落し，腰の骨を折る重傷をおった。 2013/11/26　産経新聞より 【資料１】通路の傷み（写真及び新聞記事） 【資料２】警備員による交通整理（写真） 【資料１】及び【資料２】は観光客の安全確保に関するものである。子どもたちは，観光客の安全を確保するために通路を修復したり警備員を配置したりすると考えた。 Ｃ１は，観光客が転落して重傷を負ったという事実を資料から読み取り，修復することの必要性に言及している。Ｃ７及びＣ８は，これまでに学習したことをもとに，観光客が増加したことにより駐車場がいっぱいになり，路上駐車をする人が増え，それが事故につながる恐れがあることについて考えている。 竹田城跡で，７本の松の木のうち２本がかれていることがわかった。観光客に根元をふまれるなどして，みきの育ち方のおとろえが目立つという。地面があれたことが原因の一つにもなっているとされている。 2014/1/24　朝日新聞より 【資料３】竹田城の松のおとろえ（写真及び新聞記事） 竹田城跡の石垣が，ほう落するおそれが出てきている。 くずれかけているのは城跡で最も高い天守台の下にある石垣。はば約５ｍ，たて約３ｍにわたり，積んである石が最大で50cmほど飛び出しているのが見つかった。 2013/6/26　朝日新聞より 【資料４】石垣の崩落の恐れ（写真及び新聞記事）

C15：あそこ（朝来市）で話を聞いたときに，竹田城は，姫路城と法隆寺と同じような扱いをしているっていうから，石垣を直すときに乱暴な扱いをしたら余計石垣が崩れたり石垣の重さを量ることもできないって言ってたから，それで丁寧にするために観覧料を取っているのだと思います。

T：朝来市の人たちって，竹田城のこと，今壊れそうなのですよね，どうしていこうと思っているのでしょうか。

C16：大事にしていく。大切にしていく。

（略）

T：守るとか安心安全とかっていうキーワードが出てきましたが，実際に，観覧料で集まったお金ってどれくらいか分かりますか。そして，何に使っているか見てみましょう。

（略）

T：収入よりも支出，使うお金の方が多いのですよね。

T：足りないのだったら，もっと観覧料を300円とかじゃなくて1000円とか，2000円とか，10000円とかにしてもいいのではないですか。

C17：1000円とか2000円とかにすると，高すぎて観光客の人が来なくなってしまうかもしれない。

C18：観覧料が300円ならまだ来るかもしれないけど，1000円とか2000円とかだったら高すぎるからお客さんが…例えば，５人とかだったら5000円になるから，それはちょっと高すぎだと言って来なくなるかもしれないから。

T：今は，みんなはこうやって，もっと観覧料が高かったら行ったりしないよっていうところで，観光客の立場になって考えました。

（略）

T：朝来市役所の方は，みんなが考えたように，竹田城を守って安全に観覧しながら，多くの人に来てほしいと考えているのかもしれないですね。

【資料３】及び「資料４」は，史跡保護に関するものである。子どもたちは，竹田城の石垣が崩落する恐れがあったり，松が枯れたりしていることを示す資料から，竹田城を守っていく必要があることについて考えた。

C10及びC11は，単に枯れかけている松を植え替える作業にかかる費用のためだけではなく，観光客に松も竹田城の大切な史跡の一部であることを知ってもらい，観光客にも史跡を守っていく意識をもってもらうために観覧料を徴収する必要があると考えている。C14は，竹田城が傷んでいくことによって，竹田城の人気が下がってしまうことから修復の必要があると考えている。またC15は，姫路城や法隆寺と同様に竹田城は歴史的に重要な史跡であり，大切に保護していかなければならないことに言及している。

平成25年度　竹田城跡観覧料収入及び支出

収入（集まったお金）		支出（使うお金）	
観覧料	5120万円	警備員や係の人の給料	2700万円
		広告料	400万円
		トイレなどの設備の修理費	164万円
		雪対策費	38万円
		仮設トイレ・AEDなどの費用	650万円
		ごみ箱・掃除道具代	130万円
		石垣や道の修繕費	2000万円
計	5120万円	計	6038万円

【資料５】平成25年度竹田城跡観覧料収入及び支出

【資料５】は，竹田城の観覧料収入及び支出を示したものである。子どもたちは，これまで考えてきた「観光客の安全確保」と「史跡保護」について，どのようにお金が使われているかを実際の支出の内訳を見ながら考えた。さらに，収入と支出を比較し，収入の方が少ないことから，設定された観覧料の意図についても考えた。

C17及びC18は，観光客の立場から，設定された観覧料の理由を推測している。

【写真１】　本時の板書記録

ている事実とともに，公共機関における説明責任（アカウンタビリティー accountability）にも迫っている。公共機関は，税金の出資者である市民への公金の使用説明が求められている。竹田城跡を守りながら多くの観光客に安全に観覧してほしいという朝来市の願いがある。

関連する事実を正しく把握し，個々の事象を取り巻く関連事象を，可能な限り過不足なく捉え，全体の事象の関係性を明らかにして，理由を解明する。本実践では，来訪者の安全性と史跡保護のための費用を関連づけて捉えられている。子どもの的確な読解を促し，科学的認識形成（理論的知識の習得・活用）を保証するには，教師による発問と資料の提示，竹田城跡のある竹田地域の実地見学や調査，朝来市役所でのインタビューなどの体験的な学習の設定，さらには，「立場軸を取り入れた思考」（観光客の立場，朝来市役所の人たちの立場）を意識して組み入れたことが，朝来市のまちづくりに関する本質的理解を深める手立てとなっている。　（關　浩和）

3.2　学級及び抽出児の読解力形成結果
―ワークシートを手がかりとして―

本節では，ワークシート（以下，シート）を手がかりに，学級及び抽出児の読解力形成結果を明らかにする。本研究では，児童の読解力形成過程がたどれるように，シートに毎時記入させ，ポートフォリオ的に保存した。

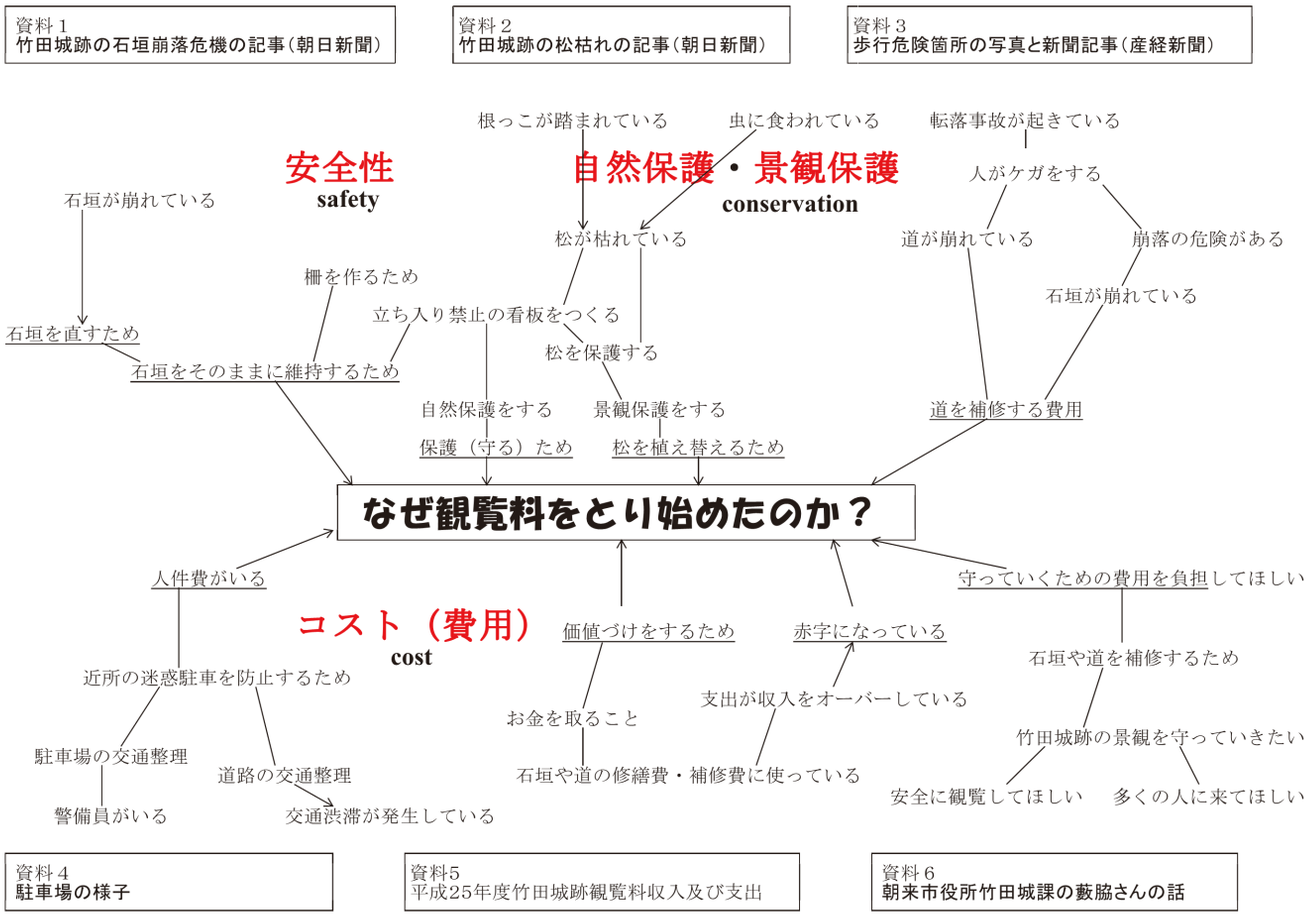

図１　「朝来市が観覧料を徴収し始めた理由」の読解過程

シートから，学習問題に対する客観的知識の成長が見られるのかを整理し，読解力形成過程の評価を行う。

3.2.1　学級全体の読解力形成結果

ここでは，シートに記入された内容をもとに学級全体（33名）における読解力形成の傾向を提示する。分析は，本単元を通して重視した点である立場軸に基づき，設定されたなぜ疑問に対する仮説や答えを，複数の立場で記入しているか，33名全員のシートを分析した（表３）。

本実践の第２次では，竹田城と城下町の見学という体験的な活動の後に３つのなぜ疑問を設定し，さらにその３つから導出された「なぜ観覧料を徴収しはじめたのか」という中核的な学習問題を設定している。４つすべてに複数の立場で解答した者は25名中14名であり，その全員が情報の解釈レベルの記述ができている。

第２次第４～８時の学習問題では，それぞれ23名／27名，20名／28名，24名／27名，20名／33名に複数の立場で解釈した記述があり，本単元で重視された複数の立場にたって考えさせることは概ね成功している。また，７名が第３次で書かせたまとめに推論の省察を記入している。推論の省察は，竹田城に関する様々な立場の人々が行っている取り組みの理由を，これまでに授業等を通じて獲得した情報や自身の解釈に基づいて振り返る推論の妥当性の判断や，導き出した結論に基づいてこれからどのように取り組んでいけば良いのかを考えることである。例えば，「竹田城の観光客の人がふえて，市役所の人たちや地域の人は喜んでいると思っていましたが，実は竹田城がいたんでいて，石垣もくずれそうなところがあると知ってびっくりしました。」という S.R 児（No.14）は，自身が持っていた観光客が増えると地域の人は喜ぶものだという基礎としての概念的知識では説明がつかないことを，授業で獲得した情報から認識する。そして，地域で様々な人々が，様々な人々のために行っている取り組みの理由がわかることによって，解釈コードを複雑化させている。

3.2.2　抽出児の読解力成長と社会認識形成との関係

ここでは全てについて複数の立場で思考している14名の中から，読解力が形成され，社会認識がよく育っていると考えられる児童 O.U 児（No. 7）の記述を取り上げる。そして，社会科固有の読解力形成の方法である，情報の収集，情報の解釈，推論の省察の３つの段階に分類し（表４），その形成過程を検討したところ，資料による情報の収集，仮説設定による情報の解釈を行っていることがわかった。また，第３次で記入した学習のまとめで，獲得した情報とその解釈を振り返り，これからどのようなことに取り組むのか，なぜ取り組むのかを書き込んでいる。これからとるべき行動の根拠を学習内容や経験から導き出し判断している。

3.2.3　読解力形成に関する評価

複数の立場での思考，そして資料からの情報収集，仮説設定による情報の解釈は概ね成功している。しかし，33名中７名の児童しか推論の省察が書けていないのは，推論の妥当性を判断させる記述を教師が促していなかっ

たからだと推察できる。シート記入の際に意図的に記入させる手立てが求められる。　（吉水裕也）

3.3　読解力形成のための授業構成と評価

本単元は，小学校中学年のいわゆる県の学習に位置付けられる。子どもたちは，「県の広がり」を学習した後に，本単元を迎えている。つまり，県内には様々な地域があり，各地域には固有の産業・特産物や観光名所があることを学んでいる。だが，その割には単元の導入にぎこちなさを感じる。多分，竹田城の扱いが唐突だからではないか。むろん子どもたちは，竹田城をよく知っており，關，吉水両氏の分析にあるように本時の展開は効果的であった。だが，単元の授業構成には不満が残る。それは竹田城の位置付けに原因があるというのが筆者の見立てである。以下，簡潔に説明しよう。

子どもたちは，何のために竹田城を学ぶかを理解していないと思われる。おそらく「天空の城」として話題になりマスコミに取り上げられるから，あるいは県内の大切な文化財だからといった理解ではなかろうか。だが，それでは竹田城の学習に留まるか，同じく城のある姫路市との比較から，文化財を活かしたまちづくりの学習に留まろう。授業者のねらいは，「まちづくり」をめぐる多様な立場やジレンマを追究することで，現在の日本社会に普遍的な地域の活性化の問題を考えさせることにあったはずである。では，どうすればよいのか。

まず，導入に当たる第１次を，県内のまちづくりから始めるべきであろう。前単元とのつながりから，特産物，文化財，豊かな自然（温泉や海岸），スポーツ･娯楽施設など，多様な手段と方法でまちづくりをしていること，目的は「人を集め，金を落とさせること」にあることを確認する。その上で，竹田城を活かそうとする朝来市を事例として取り上げる。そして，観光客の増加で困っている朝来市の記事を提示すれば，「一体どういうことなのか，現地に出かけて調べてみたい」という思いが強くなり，より追究は深まったのではないか。

次に，授業者が，立場軸と称する３主体の扱いである。これを単なる立場で留めては意味がない。農家・職人･小売店・会社員・公務員等の職業とは明確に一線を画して，＜公（市役所）・共（地域住民，ボランティア）・商（商工会）・私＞という社会的立場＝役割と捉えないと，構造的な社会認識には繋がらない。つまり，前者では単に「立場（人）によりいろんな考えがある」という人生いろいろのレベルに留まってしまう。人間は，究極的には＜私＞だが，公務員なら＜公＞の立場で考えねばならないし，商工会や企業の社員なら＜商＞の立場で利益を追求する。だが，＜私＞が＜共＞の立場で地域のために参加・貢献することもある。社会は，そうした役割を遂行する主体により成り立っているのである。そのことを学べば，まちづくりは決して余所事や他人事ではなくなり，自分たちの住むまちへの関心が高まるはずである。

したがって，終結部の第３次の構成も，姫路市との比較に終わらせず，さらに１～２時間を確保して加東市のまちづくりについて考えさせれば，子どもたちの社会参加意識を促すことにもなったのではないか。

表３　シート記述による各時間における児童がとった立場分析結果

（１：一つの立場，２:複数の立場，－：欠席，網掛けは全て複数，番号に付した*は第３次のまとめで推論の省察を記述している児童）

学習問題 No	なぜ天空バスを走らせたのか (n=27)	なぜボランティアをしているのか (n=28)	なぜ商工会は店をつくったのか (n=27)	なぜ観覧料を徴収しはじめたのか (n=33)
1	2	2	-	2
2	-	-	-	2
3	2	1	2	2
4	1	2	2	2
5	1	-	-	1
6	2	2	2	2
*7	2	2	2	2
8	2	2	1	1
*9	2	2	2	2
*10	2	2	2	2
11	2	2	1	2
12	-	-	-	1
13	2	1	2	1
*14	2	2	2	2
15	2	2	2	2
16	2	2	2	2
17	2	2	2	2
18	2	2	2	2
19	2	2	2	2
20	2	2	2	2
21	2	2	1	2
22	-	-	-	1
23	2	2	2	2
24	-	2	2	1
25	2	1	2	1
26	2	2	2	2
*27	2	1	2	2
28	2	1	2	1
29	2	1	2	1
*30	1	1	2	1
31	1	1	1	1
*32	-	2	2	1
33	-	-	-	1

（児童が書いたシートをもとに筆者作成）

もちろん，以上の指摘は，授業者のねらいを活かす方向での改善案であり，第２次の本時の授業が示唆するような，「文化財（景観）保護や安全性と対策費（コスト）」のジレンマに焦点化した単元構成もあり得る。ただ，その場合は社会の普遍的な論争問題の事例として，竹田城を位置付けることになり，県の学習からは遠ざかろう。

（原田智仁）

4　小括－成果と課題－

本研究の成果と課題は以下の３点である。

第一は，竹田城という話題性に富む事例を取り上げて，まちづくりのための多様な主体（アクター）の取り組みを学ぶことができた点である。だが，最終的には公・共・商が互いに協力しているという常識レベルの認識に留まった。むしろ社会的役割の視点から，それぞれの取組みの＜意味＞に注目させる必要があったといえよう。

第二は，多数の観光客の来訪を願うはずの朝来市が，「なぜ竹田城の観覧料を取り始めたのか？」という主発問を設定した点である。そこには授業者の教材構成の巧みさがある。予想通り，安全性や文化財の保護とコスト

表４　O.U児のワークシート記述内容

次	時	読解力形成のための方法（情報の収集：破線，情報の解釈：実線，推論の省察：波線）
2	4	【資料１】自転車の人もいるし，歩いている人もいて，その人の横は車を運転している人がいてあぶない。 【資料２】道路がじゅうたいしてぜんぜん進まないから（車に乗っている人が）時間のむだ。竹田城に行けない。 【仮説】おとしよりとかが登るときに，けしきをながめながら，らくに楽しく登ってほしいから。小さい子がいる家族も登ると思うから。足が悪い人も。 【まとめ】かってに車を停めて，人が来なくなったり少なくなったりしていくし，渋滞して退屈になったり疲れたりするし，運転している人の時間もむだだから運行しはじめたんだと思います。
	5	【仮説】お金をもらわなくても，人が笑顔になってくれたり，元気になってくれたら，自分も笑顔になったりパワーをもらえるから，地域の人はボランティア活動をしているんじゃないかな。 【資料１】竹田城の良さ，しくみを知ってもらうため。【資料２】朝来市に竹田城を見に来た人が「毎日ここはきれいにしてる」とか「ゴミがなくてすごい」って言ってもらえてうれしいから毎日毎朝している。【資料３】いろいろな人が杖を使って楽に登れるように杖を作っている。【資料４】大切にしている。誇り。宝物。シンボル。 【まとめ】地域の人は竹田城のことを誇りに思っている，宝物だと思っているから，人が来ても恥ずかしくないようにボランティア活動しているんだと思います。
	6	【仮説】竹田城を見に来てくれた人がおなかをすかせたまま帰らせるのはダメだから，お店を作ったんだと思います。 【資料１】駅の近くにお店がある。【資料２】（記載なし） 【まとめ】観光客や住人の人たちが竹田城を見に来て，くいを残らせないようにお店を作ったんだと思います。
	8	【仮説】竹田城にたくさん来てくださって，しばふはきたないし，石がきも持って帰ったりする人がいたり，人でいっぱいになって竹田城から落ちてこっせつした人がいるから危険だし，しゅうりとかでお金がいるから。バスを走らせるのにお金がいるから。これからまた竹田城がくずれるかもしれないから。お金を取ると大切に思われる。 【資料１】仮説：石が飛び出しているって書いてあって，そこを歩いた人がけがをするかもしれないから，その石をなくすために立入禁止にしたと思います。【資料２】仮説：竹田城にいっぱい来てくれた人がそこをふんで地面があれてしまって松が２本かれてしまったから，それだけ観光客に来てもらっているのがわかると思います。【資料３】仮説：坂道で危険だし，雨ですべりやすくなったり，石積みがゆるんで転落した人がいるから，雨の日や冬の雪の日は危険だなあと思いました。つながっていることは，重傷をおうかもしれない危険性が高いから観覧料を取り始めたんだと思います。【資料４】仮説：駐車場がいっぱい。黒の服を着ている人がガードマン。 【まとめ】なぜ観覧料を取ったかというと，人々の安心や安全を考えて，これからも守っていくために，竹田城の観覧料を取り始めたんだと思います。
3		地域の人やボランティアの人たちが日本のマチュピチュとも呼ばれる竹田城を，だれがいつ来ても恥ずかしくないように掃除をしていたり，足が悪い人，おとしよりのおじいちゃん，おばあちゃんなどが楽に登れるように，杖を作ったり，小さい子どもを連れてきている人などに天空バスを運行したり，来た人の思い出に残るように，人々の工夫でＴシャツを作ったり，などしているから，人々の取り組みでわかったり，学ぶことができました。わたしも何か朝来市の人やボランティアの人たちに喜んでもらえることなど，何か手伝えることがあったら手伝いたいので，だれかのために役に立てたら私もうれしいし，喜んでもらえたらうれしいので，私もいろんなことに取り組めたらうれしいので，それをこれから頑張ってやっていきたいと思います。

（筆者作成）

の関係をめぐり子どもたちは活発に追究し，学級全体として複数の立場での思考や仮説設定による情報の解釈という点で読解力形成に成功した。ただし，推論の省察には失敗した。今後は全て子ども任せにするのではなく，意図的に省察を促す手立てが必要であろ。

第三は，県の学習の延長上に，まちづくりを位置付けた点である。県の様子の学習だけでは，子どもたちの住む地域と県との関係認識は単なる地理的，機能的関係に留まる。そこにまちづくりの視点を加えると，他地域の事例が自分の町の問題となるだけでなく，子どもたちに社会参加の意識を育むことにもなってくる。その点で，本実践は部分的には優れていたが，単元全体におけるまちづくりの位置付けに課題が残った。

（原田智仁）

【参考文献】

・国土交通省総合政策局観光部『新たな観光まちづくりの挑戦』ぎょうせい，2002年。
・持丸伸吾「地域づくりの新しい考え方」『観光まちづくり』知的財産創造，1999年。
・吉田正生『Let’s do 社会科！その現在と未来』文教大学出版事業部，2014年。